



選ばれるまち、健康に暮らせるまち、子育てしやすいまち、災害に強いまちとするための

豊橋市におけるトイレの諸問題を問う

41号発行についてのご挨拶

行政の所管するトイレには、維持管理面や機能面とともに、利用実態に合わせた合理性が求められています。

福祉避難所となる施設にはオストメイト対応の多目的トイレも必要、私は事故の際、人工肛門装着の経験がありますが切実な問題です。

屋外トイレは、学校、スポーツ施設、公園などで見ますが、維持管理面や機能面で問題を抱えたものが多く、どこそこの公園トイレは使用に耐えず近くのコンビニのトイレに行くという話は、当たりまえのように聞きますが、使用したくない陳腐化したトイレにも行政コストはかかっています！

現在の基準でトイレを更新した場合、新しい多機能型トイレは便器自体のインシヤルコストも、電化によるランニングコストやメンテナンスも必要で耐用年数も短い。トータルコストの計算は不可欠です。

それらを踏まえた上で、暮らしやすい空間へと転換する象徴として「トイレ」は欠かせません。

政府は「暮らしの質」向上検討会を開催し、快適な暮らしへの転換の象徴としてトイレに着目して「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を開始、その一環として、快適なトイレ空間や国際貢献、災害対応の場などでのトイレ事例を広く収集する「日本トイレ大賞」を開催しています。

1 スtockマネジメントの視点から、本市が所管するトイレの現状と課題への認識、今後の対応は？

A 施設の有効活用策として複合化等を進める中で、利用者の変化や日本人の体格の向上、外国人への配慮など、あらゆるニーズへの対応が必要と考えており、トイレも状況を踏まえ、スペースや便器の形状やサイズの見直し、わかりやすい表示などといった使いやすさの向上に努めていくとともに、災害時における避難所のトイレ機能のあり方についても考えていく必要があります。

今年度作成する施設白書では、トイレの情報を掲載し、使う人が安心して施設に訪れることができるよう情報提供に努めます。

伊藤とくや 人口減少時代の下水道整備Stockマネジメントの視点に「合併処理浄化槽」があり大地震にも強い。し尿は現在資源化センターに投入しているが、中島処理場のバイオマスで燃料化され、ガス発電の燃料となる日はあとわずか。

2 選ばれるまち豊橋を具現化するトイレ整備を推進する本市におけるトイレ整備支援への認識と対応について商業振興、観光振興の視点からトイレ改修に対する補助・助成制度、実績は？

Q 『補助事業をもっと知ってもらい、補助対象や補助率の拡大』『民間が開放しているトイレへの支援』『トイレの情報発信』『トイレの使い方の多言語化やピクトグラムの支援』を聴く。

A 魅力あるお店づくり・観光地づくりを進めるうえで、トイレを快適なものに改修することの重要性は高まってきていると認識しています。個々のお店のニーズや先進都市の状況を十分に把握し、必要となれば現行の補助制度の見直しも含めた対応を検討したい。

伊藤とくや 実績は芳しいとはいいがたい。産業部には「豊橋市女性雇用環境整備補助金」事業もある。心底期待する。

3 健康に暮らせるまち豊橋を具現化するトイレ整備とは？

Q 高齢者・障害者など福祉の視点からのトイレ改修に対する補助・助成制度、実績、及び今後の対応は？

A 高齢者・障害者の方に対して、現行制度を利用していただけるよう制度のPR、普及に努めたい。

伊藤とくや 要介護認定者は、ケアマネなどが相談に応じ、自宅での生活環境を整えるサービスの利用につながっている。今後は福祉と産業との連携を期待する。

4 子育てしやすいまち豊橋を具現化するトイレ整備とは？

Q 学校トイレの現状を踏まえた対応方針について

A トイレを整備する際は子どもたちからのアイデアを取り入れた整備を考え、快適さと愛着心、更にはひとつの学びの場となることを目指したい。

伊藤とくや 学校トイレの課題は『洋式化』『乾式化』『エコロジー』。生徒数が減少するなか学校トイレは数からソフトハードとも質へシフトしていただきたい。

トイレ事例集

みんなで作ろう。
みんなの
“暮らしやすい!”を。



大規模災害時におけるトイレ問題

- ◆ 大規模災害時におけるトイレの確保・管理は公共・民間問わず、あらゆるトイレを視野に入れて考えねばなりません。
- ◆ 平時において排泄物は、トイレを通して汚水処理施設に運ばれて適切に処理され、臭気や害虫の発生・侵入を抑えることができます。しかし、ひとたび災害が発生し水洗トイレが機能しなくなると排泄物の処理が滞り、排泄物における細菌により感染症や害虫の発生が引き起こされます。
- ◆ 避難所等では、トイレが不衛生であるために不快な思いをする被災者が増え、トイレの使用がためらわれることによって、排泄を我慢することが、水分や食品摂取を控えることにつながり、被災者においては栄養状態の悪化や脱水症状、エコミークラス症候群等の健康障害を引き起こすおそれが生じます。
- ◆ 大災害時におけるトイレの備えが人命にまでかかわることが阪神・淡路大震災、東日本大震災などから見て来たことから、平成 28 年 4 月内閣府防災担当は「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」を示しました。
- ◆ 大災害時の備えとして、携帯トイレの啓発普及を図る自治体もある。

Q 内閣府・防災担当による「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」への本市の認識と対応は？

A 避難所生活におけるトイレ環境の改善は大変重要な課題と捉え、強い問題意識を持って、ガイドラインに沿った準備対応を進めていきたい。

Q 家庭におけるトイレ確保・管理への本市の啓発は？

A 震災後しばらくは断水や下水道施設の被害が懸念され携帯トイレなどを使用して排泄後の処理を行うことが必要であり、取組を進めたい。

伊藤とくや 「豊橋市南海トラフ地震被害予測調査」によると、自宅の安全が確保されトイレを使用することが出来てもインフラの被害予測は厳しく、**発災直後は**

- ⚡ 電気は需要家数 89%の約 182,000 戸が**停電**
- ♥ 95%が復旧するには 1 週間かかります。
- ⚡ 上水道は給水人口 99%の 375982 人が**断水**
- ♥ 95%が復旧するには 6 週間かかります。
- ⚡ 下水道は発災直後処理人口 70%の 19 万人が**機能支障**
- ♥ 95%が復旧するには 3 週間かかる。**水洗トイレは暫らく使えません。**

Q 地域の防災訓練で、避難所のトイレ対策を組み入れた訓練を実施すべきでは？

A 避難した方々が使用方法を知らねば正しく使えないため、簡易トイレ等の使用方法や留意点を市民へ周知することは大変重要。

Q 市民に対してトイレ確保マニュアルを作成し、より積極的に啓発すべきでは？

A 今後マニュアル等の改訂時に、災害時のトイレの使用方法や各家庭における携帯トイレ等の備えなど、トイレに関する内容を充実させることで、積極的に啓発したい。

伊藤とくや 本市は災害時トイレ確保について模範を示すこと、本市所管の拠点施設を事例とした率先垂範があつてしかるべきでは！

あとがき 3Kという言葉は公共トイレの「きたない」「くさい」「くらい」の頭文字をとったもの、最近では「こわい」「こわれている」を加えた5Kという言葉があります。しかしこの10年余りで、都心の鉄道駅のトイレはきれいになり、デパートは競って豪華なトイレをつくり、村おこしの一環として「華麗な」公共トイレが出現するなど、トイレは大いに変化・進化しました。現代においてトイレ環境づくりは、まちのおもてなし、まちのおもいやり、まちの文化、まちの教養、まちのリスク管理、まちのプロモーションの時代を迎えたと言われています。

全てをまとめて質問 ◆ 近年、誰もが暮らしやすく、活躍できる社会を目指す上で、日々の「暮らしの質」の向上は欠かせないと、政府は「暮らしの質」向上検討会を開催、快適な暮らしへの転換の象徴としてトイレに着目し「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を開始。毎日何度も足を運び、一生のうち 8~11 カ月間という長い時間を過ごすトイレ空間の質が、私たちの人生そのもののクオリティに大きく関わるといっても過言でないとしています。

- ◆ 提言のポイントは、暮らしやすい「空間づくりについて」であり、女性が暮らしやすくなる空間へと転換する「象徴」として、トイレを中心に取り上げる。
- ◆ 日々の暮らしにトイレは欠かせず、清潔性、快適性、安全性を向上させることが重要であることに加え、外交、成長戦略、防災、地方創生の観点からも重要な意味がある。
- ◆ 私たちにとって最も身近な設備である「トイレ」の快適性、清潔性、安全性の向上に向けて、支え合いのため官民あげて女性を中心に、みんなで集まり考えるべきだと思います。

そこで…

本市は日々の「暮らしの質」の向上に、最も身近な設備の「トイレ」について、女性の意見に十分に耳を傾けることのできる体制の環境整備が必要であると思うが所見を伺う！

A 金田副市長 政府における「暮らしの質」向上検討会での議論の中で、女性が暮らしやすくなるようなトイレへの転換という話があります。

今、国を挙げて、全ての女性が輝く社会づくりを進めていくということに取り組んでおり、地域や社会が活性化していくために、また、全ての人々にとって暮らしやすい社会を目指すためには、女性が活躍できる環境整備が必要です。

また、そのことは職場、あるいは家庭においても期待されているし、求められているのだと思います。

本市においても、今年度から女性が輝くまちづくりを進めており、暮らしやすい環境づくりには、今回テーマとなっているトイレの清潔性、快適性、安全性については、女性の視点が大変貴重であると思います。

女性の視点が活かされてくれば、男性も含めて同様に暮らしやすい環境がづくられてくると考えます。

公共施設をはじめ、災害時のトイレ対策など、幅広い視点でお話しいただきましたけれども、職員をはじめ、利用者の方々、幅広く女性の意見を取り入れるということが大事だと思いますので、どのような方策がとれるのかどうかは、今後いろいろな方策があろうかと思いますが、今後必要に応じて進めてまいりたいと思います。

伊藤とくやのおもい 先ほどお示した内閣府「暮らしの質」のトイレ事例集ですが、愛知県のトイレは一つも取り上げられていません。

- ♥しかし私は豊橋のトイレには素晴らしい発展の余地があつと思うのです。
- ♥新しく作る道の駅、まちなか図書館、新しなる陸上競技場、第 2 アリーナといった新しい施設への期待もある。また、古いトイレの改修や工夫、そしてなんといい中島処理場まで巻き込んでの、トイレ・マネジメントもある。
- ♥是非とも女性の意見に十分に耳を傾けることのできる、更なる体制の環境整備をしっかりと進め、取組や活動をまとめるなかで、近い将来是非とも「日本トイレ大賞」を目指していただきたい。😊😊😊

市政報告会のお知らせ

日付 平成 29 年 8 月 24 日(木)
 時間 18 時 30 分より
 会場 カリオンビル(松葉町 2 丁目)
お気軽にお越しください！



発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-68
 FAX : 0532-56-5521
 TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
 携帯 : 090-3855-9696